

17 関係機関・団体との連携に関する事項

1 校友会・親和会との連携

校友会（卒業生組織）及び親和会（保護者会）は、いずれもその設立趣旨に則り、龍谷大学の発展に資するとともに会員相互の親睦を図ることを目的としている。毎年度、大学・校友会・親和会の三者が連携した共催事業（以下「三者共催事業」）を展開している。

●校友会との連携

学長、副学長又は学部長が、校友会各支部（46支部）の総会・支部事業（例 公開講演会）等に積極的に参加し、各支部の会員（卒業生）との交流を深め、大学と卒業生とのつながりを強めることに努めた。2011年度からは、特に卒業生に対する就職支援の協力を要請している。

●親和会との連携

大学・親和会の共催で、保護者懇談会を全国29会場で開催した（参加者合計：2,406名）。学長、副学長又は学部長を含む数多くの教職員が各会場に参加し、学修懇談・就職相談を実施した。また親和会からは、学習環境の整備や課外活動等に対して積極的な支援・協力を受けた。

●2012年度の特記事項

2012年度は、三者共催事業として①北陸地区における知名度向上事業（参加者合計：5,103名）②在学生の就職支援に重点を置いた保護者対象の「大学懇談会（大阪）」（参加者806名）③校友や保護者が大学に集う「ホームカミング・デー」（参加者1,280名）及び「龍谷賞贈呈式」等を実施した。

2 学校法人が出資する事業法人との連携

大学財政に関する外部環境においては、経常費補助金の減少や景気低迷による金融市場の低迷に加え、2014年度から段階的に消費税が増税されることになり、今後、さらに厳しい局面を迎えることになる。本学における財政政策の主たる課題は、第5次長期計画の財源確保と消費収支の安定的な運用であるが、そのためには、外部環境の変化に耐えうる収支構造の改善が重要となる。このような認識から、新たな収入源の獲得方策として、事業法人である「龍

谷メルシー株式会社」を設立し、財政基盤を強化することとした。事業法人設置からの寄付金収入による財務的資源や、間接業務のスリム化による人的・組織的資源を、教育・研究・社会貢献事業の環境整備にあてることにより、本学の教学充実に資することが期待できるものである。

3 浄土真宗本願寺派及び本山本願寺との連携

本法人の設立理念や寄附行為からもわかるとおり、本法人の設立母体である浄土真宗本願寺派及び本山本願寺との関係は重要である。本法人の発展に係る歴史的経緯を見ても、人的・経済的な側面において浄土真宗本願寺派から様々な支援を受けており、今後も本法人が多様な展開を進めながら社会的支持基盤を確立していくために、浄土真宗本願寺派及び本山本願寺との連携を強化していくことが重要である。

●宗学連携推進協議会による連携強化

2011年度に浄土真宗本願寺派において厳修された親鸞聖人750回大遠忌法要では、本学においても積極的に連携を図り、様々な事業が実施された。これらの連携をより強固にするため、双方の連携を推進する機関として「宗学連携推進協議会」が設けられた。2012年度においても「宗学連携推進協議会」をもとに浄土真宗本願寺派との連携・協力体制を築き、諸事業を推進した。とりわけ、浄土真宗本願寺派及び本山本願寺がおこなう行事への学生参画や龍谷ミュージアムの運営にあたっては、より連携を深めながら推進した。

4 龍谷総合学園との連携

親鸞聖人の精神・浄土真宗の教えを建学の精神とする学園が、それぞれの個性を生かしつつ、相互の連携を密にしながら発展することを目的に「龍谷総合学園」が組織されており、現在、27学校法人71校（7大学、2短期大学、28高等学校、15中学校、4小学校、14幼稚園・保育園、1海外の教育機関）が加盟している。

●龍谷総合学園学校間連携推進委員会等への参画

加盟校の学校間連携に関する諸事業を統括する中核機関として、「龍谷総合学園学校間連携推進委員会」が2006年に設置された。同委員会は、生徒・学生及び教職員の交流を通じ、総合学園と各学校の教育・学習活動の活性化を促すための事業の企画・推進を目的としており、本学は龍谷総合学園の中心校として、事業の企画・推進に携わった。今後も、各種研修会、研究会、協議会等にも積極的に参加し、龍谷総合学園の発展に寄与できるよう努めることとする。

●龍谷アドバンスト・プロジェクトへの協力

龍谷総合学園が実施母体である「龍谷アドバンスト・プロジェクト」への担当講師や学生サポーターの派遣、科目提供や合宿研修時の指導等の協力を行なった。本事業は、高大連携事業として、e-learningによる教育素材を活用しながら、学校間の相互連携・人的交流を図りつつ、生徒の主体性を支援することを目的として実施されたものである。2012年度は、8月22日～24日に大宮学舎・深草学舎にて開催され、龍谷総合学園加盟校17校から生徒・教員あわせて約100名が参加し、プレゼンテーションコンテストに向けて熱心に取り組んだ。

5 仏教系大学会議との連携

本学が加盟している「仏教系大学会議」は現在64の大学・短期大学で組織されており、建学の理念を仏教におく全国の仏教系大学が、それぞれの個性を尊重しつつ各大学間の連携を密にし、各大学の充実発展を図るとともに高等教育機関としての社会的責務を遂行することを目的としている。

●幹事校として参画

本学は、1994年の設立当初より幹事校（愛知学院大学、大谷大学、高野山大学、駒澤大学、淑徳短期大学、大正大学、兵庫大学、佛教大学、立正大学、龍谷大学）として参画しており、幹事である学長が本会議の運営に主体的に携わっている。本会議は毎年度、研修会の開催及び機関紙「如是我聞」の発刊を行っており、2012年度においては、代表幹事校である大谷大学を中心に、兵庫大学を研修担当校、京都光華女子大学を研修会場担当校として各事業を実施した。また、本会議の設立20周年に向けた記念事業の企画運営にも参画した。

6 私立大学連盟

日本私立大学連盟（以下「連盟」という）は、私立大学の振興等を目的として設置された一般社団法人であり、現在124大学（109法人）が加盟している。本学は、教育研究環境の向上と経営基盤の確立に資することを目的に加盟しており、連盟の方向性や情報を敏速かつ的確に収集するために、積極的に諸委員等を派遣している。

●諸委員等の派遣と研修事業等への参加

2012年度においても、私大連事業（研修等）への一般参画だけでなく、本学教職員を運営委員等として積極的に派遣した。主なものを以下に記載する。

○FD推進ワークショップ運営委員会（経営学部教授）

○キャリア・ディベロップメント研修運営委員会（大阪オフィス課長）

○業務創造研修運営委員会（情報メディアセンター事務部次長）

○マネジメントサイクル（PDCAサイクル）修得研修運営委員会（研究部長）

7 大学コンソーシアム京都

大学コンソーシアム京都（以下「コンソーシアム」という）は、「大学のまち・京都」の充実・発展を目的に、大学間連携事業や産官学地域連携事業を展開する公益財団法人であり、京都地域の約50の大学が加盟している。本学は、コンソーシアムの設置当初から加盟しており、2012年度においても、学生の多様な学習機会を設けるべくコンソーシアムの各種事業を積極的に活用するとともに、諸委員等の派遣や専任事務職員の出向を通じて、コンソーシアムの運営に主体的に関わっている。

●2012年度の主な事業の活用状況

多様な学習機会等を提供するため、コンソーシアムが実施する単位互換制度やインターンシップ事業等を積極的に活用した。

○単位互換制度利用学生数：

本学からの派遣学生数342名 参考：他大学からの受入学生数393名

○インターンシップ制度参加学生数：

ビジネスコース66名、パブリックコース 16名、プログレスコース12名、合計：94名

○京カレッジ利用学生数：29名